




Microsoft System Center Configuration Manager 用
Dell Server Deployment Pack バージョン 3.1
ユーザースガイド



メモ、注意、警告

-  **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2016 すべての著作権は Dell Inc. またはその子会社にあります。 Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

2016 - 11

Rev. A00


目次

| | |
|--|-----------|
| 1 はじめに..... | 4 |
| 本リリースの新機能..... | 4 |
| Dell Server Deployment Pack 機能の概要..... | 4 |
| Dell Server Deployment Pack のためのコンソールおよびオペレーティングシステムのサポートマトリックス..... | 4 |
| 複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ..... | 5 |
| 2 Configuration Manager を使用する前に..... | 6 |
| Recommended Dell Deployment Toolkit version for Dell Server Deployment Pack..... | 6 |
| 3 Configuration Manager Version 1606、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、 または 2012 を実行するシステムでの Dell Server Deployment Pack の使用..... | 8 |
| Dell Driver CAB files..... | 8 |
| 起動イメージの作成用の Dell ドライバ CAB ファイルのインポート..... | 8 |
| Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード..... | 8 |
| Dell ドライバ CAB ファイルによる起動イメージのカスタマイズと OS の導入..... | 9 |
| Dell PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成..... | 10 |
| 起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化..... | 10 |
| コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート..... | 11 |
| オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定..... | 11 |
| タスクシーケンスの導入..... | 12 |
| Dell Deployment Toolkit..... | 12 |
| ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート..... | 12 |
| DTK パッケージのアップグレード..... | 12 |
| DTK による起動イメージのカスタマイズ、ハードウェアの設定、および OS の導入..... | 13 |
| サーバーのハードウェアコンポーネントの構成..... | 13 |
| タスクシーケンス処置の設定..... | 14 |
| Array Builder の使用..... | 20 |
| RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成..... | 24 |
| Dell サーバードライバパッケージのインポート..... | 26 |
| 4 Troubleshooting..... | 27 |
| An error occurs while trying to apply RAID on a system using command line interface..... | 27 |
| Upgrade Scenario 1..... | 27 |
| Upgrade Scenario 2..... | 27 |
| 5 コマンドラインオプション..... | 29 |
| 6 デルのその他のマニュアル..... | 31 |
| デルへのお問い合わせ..... | 31 |
| デルサポートサイトからの文書へのアクセス..... | 31 |



はじめに

本書では、Microsoft System Center Configuration Manager (Configuration Manager) 用 Dell Server Deployment Pack (DSDP) バージョン 3.1 で行うことができる各種操作について説明します。

 **メモ:** 本マニュアルには、DSDP の使用に際して必要となる要件および対応ソフトウェアに関する情報が記載されています。リリース日から長期間が経過した後に本バージョンの DSDP をインストールしている場合は、サポートサイトで本マニュアルのアップデートバージョンがないかどうか確認してください。サポートサイトの各文書にアクセスするには、「[デルサポートサイトからの文書へのアクセス](#)」または Dell.com/support/Manuals/us/en/04/Product/server-deployment-pack-v3.1-sccm を参照してください。

本リリースの新機能

- 第 13 世代 Dell PowerEdge サーバーのサポート。
- Microsoft System Center Configuration Manager Version 1606 のサポート。
- Windows 2016 の導入のサポート。
- Dell ドライバ CAB ファイルのサポート。

Dell Server Deployment Pack 機能の概要

Dell Server Deployment Pack を使用すると、次のタスクを実行できます。

- INI ファイルおよびコマンドラインインタフェース(CLI)オプションを使用した、サーバーの Dell Remote Access Controller(DRAC)、integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC)、RAID および BIOS の設定。RAID の構成には、**Array Builder ウィザード**を使用することもできます。
- オペレーティングシステムの展開に使用する Dell 専用の起動イメージの作成。
- 特定の Dell サーバーのためのドライバインストールパッケージの作成と適用。
- オンサイトサーバーのインストールにおける典型的なサーバー導入を行うための各種ウィザードへの起動ポイントの統合。
- グローバルおよび専用 RAID ホットスペアを最大 16 台までサポート。
- Microsoft System Center Configuration Manager Version 1606、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 リリースのサポート。
- **PowerEdge Deployment Toolkit 設定ウィザード**を使用した Dell Deployment ToolKit (DTK) のインポート。DTK パッケージは、管理コンソールからではなく、サイトサーバーのみからインポートするようにしてください。
- Configuration Manager 管理コンソールからの Dell ドライバパッケージのインポート。
- x64 および x86 起動イメージ (64 ビット対応 DTK が必要) を使用したオペレーティングシステムの導入。

 **メモ:** すべての対応オペレーティングシステムについては、『*Microsoft System Center Configuration Manager 向け Dell Server Deployment Pack* バージョン 3.1 インストールガイド』の「対応するオペレーティングシステム」のセクションを参照してください。

Dell Server Deployment Pack のためのコンソールおよびオペレーティングシステムのサポートマトリックス

次の表には、Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack でサポートされているオペレーティングシステムについての情報が説明されています。

表 1. WinPE 用 Dell Server Deployment Pack でサポートされている互換性のあるシステム

| Configuration Manager バージョン | WinPE バージョン | オペレーティングシステムの導入 |
|------------------------------------|-------------|--|
| Configuration Manager 2012 | 3.0 | <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 Windows Server 2008 R2 |
| Configuration Manager 2012 SP1 | 4.0 | <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2* Windows Server 2012 |
| Configuration Manager 2012 R2 | 5.0 | <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2* Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 |
| Configuration Manager 2012 R2 SP1 | 5.0 | <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2* Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 |
| Configuration Manager 2012 SP2 | 5.0 | <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2* Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 |
| Configuration Manager Version 1606 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 |

凡例 :

* - Windows Server 2008 R2 のサポートに関しては、support.microsoft.com/kb/2853726 を参照してください。

複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ

DSDP は複数のプライマリサイトサーバーにインストールすることができます。プライマリサイトサーバーに DSDP をインストールしているときは、DTK のバージョンと、CAS およびすべてのプライマリサイトサーバーで使用されている OpenManage のバージョンが同じであることを確認してください。

インストールの制限事項は次のとおりです。

- DTK をインポートしたプライマリサイトサーバー 1 で DSDP がアンインストールされている場合は、プライマリサイトサーバー 2 の既存起動イメージを使用したり、そこで起動イメージを作成することもできません。起動イメージを作成するには、プライマリサイトサーバー 2 から DTK を再インポートします。最初に DTK がインポートされたサイトサーバーは、起動イメージドライバのソースとして機能します。
- 特定のサーバーモデル向けの OpenManage ドライバは、ひとつのプライマリサイトサーバーにしかインポートできません。このサーバーは、他のプライマリサイトサーバーの OM ドライバのソースとして機能します。
- プライマリサイトサーバーが 2 つ存在する場合は、Configuration Manager コンソールに 4 つの Dell パッケージが表示されます。それら 4 つのうち 2 つが元のソースで、残りの 2 つはセカンドプライマリサイトからのインスタンスです。



Configuration Manager を使用する前に


Configuration Manager の使用を開始する前に、次の作業を行うようにしてください。

- オプションの **Dell Deployment Toolkit (DTK) のユーティリティおよび Windows PE ドライバの削除** を使用して DSDP をアップグレードする、または DSDP を初めてインストールする場合は、DTK パッケージをインポートします。Configuration Manager Version 1606、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 用の DTK パッケージのインポートに関する詳細については、「[ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート](#)」を参照してください。
- 適切なパッケージを Configuration Manager 配布ポイントに配布してアップデートします。**配布ポイントのアップデート** 操作を行うと、インストールした Dell Server Deployment Pack のすべてのパッケージが配布ポイント上で確実にアップデートされます。配布操作は、クライアントシステムによる配布ポイントへのアクセスのために、ポイント上でそれらのパッケージが使用可能であることを確認します。配布ポイントを追加するには、System Center Configuration Manager の『オンラインマニュアル』を参照してください。

 **メモ:** DTK .exe と CAB ファイルは Configuration Manager サイトのサーバーからインポートできます。

Dell Server Deployment Pack は、典型的なサーバー展開を行うため、各種ウィザードに対して統合された起動ポイントを提供します。各ウィザードに順次アクセスするには、**オペレーティングシステム展開** ノードを右クリックし、**Dell PowerEdge サーバー展開** を選択します。Configuration Manager 用 DSDP を使用して、次のタスクを実行できます。

- Dell Deployment ToolKit (DTK) のインポート
- サーバー展開のための Dell ブートイメージの作成
- 『Dell Systems Management』DVD を使用した Dell ドライバパッケージのインポート
- オペレーティングシステム展開のタスクシーケンスの作成

 **メモ:** Configuration Manager コンソールは常に管理者権限を使用して起動します。

Recommended Dell Deployment Toolkit version for Dell Server Deployment Pack

DSDP with DTK version 5.4 supports the following Configuration Manager versions:

- Configuration Manager Version 1606
- Configuration Manager 2012 SP2
- Configuration Manager 2012 R2 SP1
- Configuration Manager 2012 R2
- Configuration Manager 2012 SP1
- Configuration Manager 2012

 **NOTE:**

Configuration Manager Version 1606 supports WinPE 10; Configuration Manager 2012 SP2, Configuration Manager 2012 R2 SP1, and Configuration Manager 2012 R2 supports WinPE 5.0; Configuration Manager 2012 SP1 supports WinPE 4.0.

 **NOTE:**

In Configuration Manager Version 1606, there are only Windows PE 10.0 drivers, so only 64-bit operating systems' deployment is supported as DTK 5.4 does not support 32-bit version of Windows PE 10.0 drivers.

**NOTE:**

In Configuration Manager 2012 SP2, Configuration Manager 2012 R2 SP1, and Configuration Manager 2012 R2, there are only Windows PE 5.0 drivers, so only 64-bit operating systems' deployment is supported as DTK 5.4 does not support 32-bit version of Windows PE 5.0 drivers.

**NOTE:**

In Configuration Manager 2012 SP1, there are only Windows PE 4.0 drivers, so only 64-bit operating systems' deployment is supported as DTK 5.4 does not support 32-bit version of Windows PE 4.0 drivers.

In Configuration Manager 2012, there is only Windows PE 3.x drivers, so both 32-bit and 64-bit operating systems' deployments are supported as DTK 5.4 supports 32-bit version and 64-bit version of Windows PE 3.x drivers.

For 10th generation to 13th generation of Dell PowerEdge servers, use DTK version 5.4.

Configuration Manager Version 1606、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 を実行するシステムでの Dell Server Deployment Pack の使用

本項には、Configuration Manager Version 1606、2012 SP2、2012 R2 SP1、2012 R2、2012 SP1、または 2012 を実行するシステムでの Dell Server Deployment Pack の使用方法についての情報が記載されています。

Dell Driver CAB files

A cabinet (.cab) file is a compressed file that contains other distribution files, such as drivers and system files.

The Dell Driver CAB file provides new levels of flexibility for creating and deploying customized boot images.

起動イメージの作成用の Dell ドライバ CAB ファイルのインポート

1. Dell.com/support から最新の CAB ファイルをダウンロードします。
2. **Operations Manager** コンソール を起動します。
3. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **アプリケーション管理** → **パッケージ**と選択します。
4. **パッケージ** を右クリックし、**Dell PowerEdge サーバー導入** → **Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動**と選択します。
Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード 画面が表示されます。
5. **参照** をクリックし、ダウンロードした CAB ファイルに移動して選択します。
Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード の **インポートする CAB の選択** セクションに、選択した CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが表示されます。



メモ: WinPE ドライバがシステムにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

このシステムには WinPE ドライバがすでに存在します。DTK または CAB ファイルをインポートすると既存の WinPE ドライバが上書きされます。続行しますか？

Dell ドライバ CAB ファイルは正常にインポートされました。起動イメージを作成するには、[Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード](#) セクションの手順 7 から 11 を実行します。

Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード

1. **Configuration Manager** コンソール を起動します。
2. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **アプリケーション管理** → **パッケージ**と選択します。
3. **パッケージ** を右クリックし、**Dell PowerEdge サーバー導入** → **Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動**と選択します。
PowerEdge Deployment Toolkit 設定ウィザード 画面が表示されます。サーバー上に既存の CAB ファイルパッケージがある場合は、CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが「インポートする CAB の選択」セクションの下に表示されます。
4. **参照** をクリックし、ダウンロードした CAB ファイルに移動して選択し、**次へ** をクリックします。

選択した CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが「**インポートする CAB の選択**」セクションに表示されます。

5. **Boot Image Selection (起動イメージ選択)** で、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

 **メモ:** 次のどのオプションでも x64 起動イメージを選択する場合は、事前に 64 ビット CAB ファイルをインポートするようにしてください。

WAIK/ADK ツールからの起動イメージを使用 このオプションを使用して、x64 および x86 両方の Dell 起動イメージを作成します。起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット (WAIK) または Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。

Configuration Manager からの既存の起動イメージを使用 このオプションを使用すると、Configuration Manager 内の既存の起動イメージを選択できます。ドロップダウンリストから既存の起動イメージを選択し、それを使用して Dell 起動イメージを作成します。

カスタム起動イメージを使用 このオプションを使用して、他の場所からカスタム起動イメージをインポートします。Windows Imaging (WIM) ファイルの UNC (Universal Naming Convention、汎用命名規則) パスを指定し、ドロップダウンリストから起動イメージを選択します。

 **メモ:**

- Windows WinPE の **Use a Custom Boot Image (カスタム起動イメージを使用)** オプションを選択した場合は、ファイナライズされたイメージのみがサポートされます。
- Windows PE カスタム起動イメージには、**XML**、**Scripting**、および **WMI** のパッケージがインストールされています。これらのパッケージのインストール方法についての詳細は、『*Microsoft Windows AIK*』または『*Windows ADK*』マニュアルを参照してください。
- CAB ファイルドライバで DTK .exe ドライバをアップグレード中に、CAB ファイルドライバで既存の DTK ツールとドライバが上書きされることがあります。

6. **次へ**をクリックします。

起動イメージプロパティ 画面が表示されます。

7. **起動イメージプロパティ** で、Dell 起動イメージの名前を入力します。

バージョン および **コメント** フィールドはオプションです。

8. **作成**をクリックします。

起動イメージ作成プロセスが開始されます。進捗バーに起動イメージ作成の進捗状況が表示されます。起動イメージが作成されると、**概要**画面に起動イメージ詳細が表示され、DTK または CAB ファイルの詳細、および成功状態などの情報が表示されます。

9. 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、配布ポイントのアップデートと管理作業を行います。

Dell ドライバ CAB ファイル からインポートされたドライバが WinPE に投入されます。この処理は、Configuration Manager および ADK に依存します。起動イメージを作成する前に、これらの製品の制限事項を読むことが推奨されます。詳細については、technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx を参照してください。

 **メモ:** CAB の設定詳細は、PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザードを使用してのみ、表示することができます。

Dell ドライバ CAB ファイルによる起動イメージのカスタマイズと OS の導入

Dell ドライバ CAB ファイルをインポートしたら、次のタスクを実行します。

1. [Dell PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成](#)。
2. [起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化](#)。
3. [コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート](#)。
4. [オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定](#)。
5. [タスクシーケンスの導入](#)。
6. [タスクシーケンスの導入方法](#)。

Dell PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成


1. Configuration Manager コンソール を起動します。
2. 左ペインで、ソフトウェアライブラリ → 概要 → オペレーティングシステム → 起動イメージの順に選択します。
3. 起動イメージを右クリックし、Dell PowerEdge サーバー導入 → Dell サーバー起動イメージの作成と選択します。
Dell PowerEdge 起動イメージの作成ウィザードが表示されます。
4. Boot Image Selection (起動イメージ選択) で、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

 **メモ:** 次のどのオプションでも x64 起動イメージを選択する場合は、事前に DTK の 64 ビットバージョンをインポートするようにしてください。

WAIK/ADK ツールからの起動イメージの使用 このオプションを使用して、x64 および x86 両方の Dell 起動イメージを作成します。起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット (WAIK) または Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。

Configuration Manager からの既存の起動イメージの使用 このオプションを使用すると、Configuration Manager 内の既存の起動イメージを選択できます。ドロップダウンリストから既存の起動イメージを選択し、それを使用して Dell 起動イメージを作成します。

カスタム起動イメージを使用 このオプションを使用して、他の場所からカスタム起動イメージをインポートします。Windows Imaging (WIM) ファイルの UNC (Universal Naming Convention、汎用命名規則) パスを指定し、ドロップダウンリストから起動イメージを選択します。

 **メモ:** Windows WinPE の Use a Custom Boot Image (カスタム起動イメージを使用) オプションを選択した場合は、ファイナライズされたイメージのみがサポートされます。

 **メモ:** Windows PE カスタム起動イメージには、XML、Scripting、および WMI のパッケージがインストールされています。これらのパッケージのインストールについての詳細は、『Microsoft Windows AIK』または『Windows ADK』マニュアルを参照してください。

5. 次へをクリックします。
起動イメージプロパティ画面が表示されます。
6. Dell 起動イメージの名前を入力します。
バージョンおよびコメントフィールドはオプションです。
7. 作成 をクリックします。
起動イメージ作成プロセスが開始されます。進捗バーに起動イメージ作成の進捗状況が表示されます。起動イメージが作成されると、概要画面に起動イメージ詳細が表示され、DTK または CAB ファイルの詳細、および成功状態などの情報が表示されます。
8. 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、配布ポイントのアップデートと管理作業を行います。

DTK または CAB からインポートされたドライバが WinPE に投入されます。この処理は、Microsoft System Center Configuration Manager および ADK によって異なります。起動イメージを作成する前に、これらの製品の制限事項 (例えば、technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx) を読むことが推奨されます。

 **メモ:** DTK の設定詳細は、PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザードを使用してのみ、表示することができます。

起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化

 **メモ:** WinPE 環境でタスクシーケンスワークフローまたは失敗をデバッグするには、<F8> を押します。

1. Configuration Manager コンソール を起動します。
2. 左ペインで、ソフトウェアライブラリ → 概要 → オペレーティングシステム → 起動イメージの順に選択します。
3. 起動イメージを右クリックし、プロパティ を選択します。

4. プロパティ ウィンドウで **カスタマイズ** タブを選択し、**コマンドプロンプトを有効にする (テストのみ)** チェックボックスをオンにします。
5. **適用** をクリックして配布に進み、起動イメージを SCCM の配布ポイントにアップデートします。詳細に関しては、[コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート](#)を参照してください。


コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート

1. **Configuration Manager コンソール** を起動します。
2. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **アプリケーション管理** → **パッケージ** → **Dell PowerEdge 導入**と選択します。
3. **PowerEdge Deployment Toolkit Integration** を右クリックし、**配布ポイントのアップデート** をクリックします。
確認を求めるメッセージボックスが表示されます。
4. **OK** をクリックして、配布ポイントをアップデートします。
5. **PowerEdge Deployment Toolkit Integration** を右クリックし、**コンテンツの配布** をクリックします。
コンテンツの配布ウィザード が表示されます。
6. **次へ** をクリックして、ウィザードに従って配布ポイントを管理します。詳細については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。
7. **概要** → **起動イメージ** → **オペレーティングシステム**と移動します。
8. 作成した起動イメージを右クリックして、**コンテンツの配布** をクリックします。
コンテンツの配布ウィザード 画面が表示されます。
9. ウィザードに表示される手順に従って、配布ポイントを管理します。
10. インポートしたドライバパッケージ用の配布ポイントのアップデートと管理を行うには、**ドライバパッケージ** → **Dell PowerEdge ドライバパッケージ <Dell OpenManage バージョン>**と移動します。
ドライバパッケージウィンドウが表示されます。
11. 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、コンテンツの配布および配布ポイントのアップデート操作を行います。

オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定

本項では、オペレーティングシステムイメージの適用と Dell ドライバの追加に必要な手順を説明します。

オペレーティングシステムイメージの適用

 **メモ:** このタスクを始める前に、Configuration Manager の オペレーティングシステムイメージ ツリーに必要なオペレーティングシステムイメージファイル (.wim ファイル) があることを確認してください。

オペレーティングシステムイメージを適用するには、次の手順を実行します。

1. **タスクシーケンスエディタ** の左ペインにある **オペレーティングシステムの導入** で **オペレーティングシステムイメージの適用** をクリックします。
2. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **取り込んだイメージからオペレーティングシステムを適用する**
 - **元のインストールソースからオペレーティングシステムを適用する**
3. オペレーティングシステムの場所を参照して選択し、**OK** をクリックします。

Dell ドライバパッケージの追加

1. **タスクシーケンスエディタ** の左側にある **オペレーティングシステムの展開** で **ドライバパッケージの適用** をクリックします。
2. **参照** をクリックします。
ドライバパッケージの選択 ウィンドウが表示されます。
3. **Dell PowerEdge ドライバパッケージ <OM バージョン>** をクリックします。
Dell Server Deployment Pack に使用可能なドライバパッケージのリストが表示されます。
4. Dell PowerEdge サーバー用のパッケージ (**Dell R720-Microsoft Windows 2008x86 OMx.x バージョン** など) を選択します。
5. **Apply (適用)** をクリックします。

- ☑ **メモ:** オペレーティングシステムの展開後、インストールされている大容量ストレージドライバが、タスクシーケンスで指定されているドライバと同じであることを確認してください。異なる点がある場合は、手動でドライバをアップデートしてください。

タスクシーケンスの導入

タスクシーケンスの導入方法

これでタスクシーケンスの準備ができました。次のいずれかの方法を使って作成したタスクシーケンスを導入します。

- CD を使った導入
- USB を使った導入
- PXE を使った導入

詳細については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

Dell Deployment Toolkit

Dell Deployment Toolkit (DTK) には、一連のユーティリティ、サンプルスクリプト、およびサンプル設定ファイルが含まれており、Dell システムの導入および設定に使用できます。DTK を使用して、現在の導入プロセスを変更せずに信頼性の高い方法で、プレオペレーティングシステム環境での多数のシステム導入用に、スクリプトベースと RPM ベースのインストールを構築できます。DTK を使用すると、Dell システムに BIOS モードで、オペレーティングシステムをインストールできます。

- ☑ **メモ:** 起動に必要なドライバが含まれているフォルダが存在しない場合は、ウィザードにエラーメッセージが表示されます。

ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート

1. DTK .exe を Dell.com/support からダウンロードします。

- ☑ **メモ:** サイトサーバから DTK パッケージをインポートしていることを確認します。

2. **Operations Manager コンソール** を起動します。
3. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **アプリケーション管理** → **パッケージ**と選択します。
4. **パッケージ** を右クリックし、**Dell PowerEdge サーバー導入** → **Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動**と選択します。

Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード 画面が表示されます。

5. **参照** をクリックし、ダウンロードした DTK 自己解凍型 zip ファイルに移動して選択します。

インポート用に選択された DTK フィールドに、選択された DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。

- ☑ **メモ:** WinPE ドライバがシステムにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

お使いのシステムには WinPE ドライバがすでに存在します。CAB ファイルをインポートすると既存の WinPE ドライバが上書きされます。続行しますか？

6. 起動イメージの作成については、「[Dell PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成](#)」の項の手順 4 ~ 8 に従ってください。

DTK パッケージのアップグレード

1. **Configuration Manager コンソール** を起動します。
2. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **アプリケーション管理** → **パッケージ**と選択します。
3. **パッケージ** を右クリックし、**Dell PowerEdge サーバー導入** → **Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動**と選択します。
PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード 画面が表示されます。サーバー上に既存の DTK パッケージが存在する場合は、**システムに存在する DTK** の下にその DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。
4. **参照** をクリックし、ダウンロードした DTK 自動解凍型 zip ファイルに移動して選択します。
インポート用に選択された DTK フィールドに、選択された DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。

5. 次へをクリックします。
6. **起動イメージ選択** 画面が表示されます。
7. 起動イメージプロパティで、「[Dell PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成](#)」の項にある起動イメージの作成のための手順 3~8 に従います。

DTK による起動イメージのカスタマイズ、ハードウェアの設定、および OS の導入

DTK パッケージをインポートしたら、次のタスクを実行します。

1. [Dell PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成](#)
2. [起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化](#)
3. [コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート](#)
4. [サーバーのハードウェアコンポーネントの構成](#)
5. [タスクシーケンス操作の設定](#)
6. [Array Builder の使用](#)
7. [RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成](#)
8. [オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定](#)
9. [タスクシーケンスの導入](#)
10. [タスクシーケンスの導入方法](#)

サーバーのハードウェアコンポーネントの構成

お使いのサーバー上にある様々なコンポーネントを構成します。

タスクシーケンスの作成


サーバーを設定するためのタスクシーケンスは、次の 2 とおりの方法で作成できます。

- PowerEdge サーバー展開テンプレートを使ってデルのタスクシーケンスを作成する。
- カスタムタスクシーケンスを作成する。

タスクシーケンスは、コマンドの成功または失敗に関わらず、次のタスクシーケンスの手順に進みます。

Dell 固有のタスクシーケンスの作成

PowerEdge サーバー展開テンプレートを使って Dell のタスクシーケンスを作成するには、次の手順に従ってください。

1. **Configuration Manager コンソール** を起動します。
Configuration Manager コンソール 画面が表示されます。
2. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **オペレーティングシステム** → **タスクシーケンス**の順に選択します。
3. **タスクシーケンス** を右クリックしてから、**ヘアメタルサーバー展開** → **Dell PowerEdge サーバー展開テンプレートの作成**をクリックします。
Dell PowerEdge サーバーの展開タスクシーケンスウィザード が表示されます。
4. **タスクシーケンス名** フィールドにタスクシーケンスの名前を入力します。
5. ドロップダウンリストから使用する起動イメージを選択します。
 **メモ: 作成した Dell カスタムブートイメージの使用が推奨されます。**
6. **サーバーハードウェア設定** で、このタスクシーケンスで設定するハードウェアアイテムを選択します。
7. **オペレーティングシステムのインストール** で、次のオプションからオペレーティングシステムのインストールタイプを選択します。
 - OS WIM イメージを使用
 - スクリプトによる OS インストール
8. **使用するオペレーティングシステムパッケージ** ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムパッケージを選択します。
9. 使用するパッケージに **unattend.xml** が含まれている場合は、**unattend.xml 情報を含むパッケージ** メニューからそれを選択してください。それ以外の場合は、**今は選択しない** を選択します。



10. **作成** をクリックします
作成された**タスクシーケンス** ウィンドウが、作成したタスクシーケンスの名前と共に表示されます。
11. 表示される確認メッセージボックスで、**閉じる** をクリックします。

カスタムタスクシーケンスの作成

1. **Operations Manager コンソール** を起動します。
Configuration Manager コンソール 画面が表示されます。
2. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **オペレーティングシステム** → **タスクシーケンス**の順に選択します。
3. **タスクシーケンス** を右クリックし、**タスクシーケンスの作成** をクリックします。
タスクシーケンスの作成 ウィザードが表示されます。
4. **新しいカスタムタスクシーケンスの作成** を選択してから、**次へ** をクリックします。
5. **タスクシーケンス名** テキストボックスにタスクシーケンスの名前を入力します。
6. 作成した Dell 起動イメージを指定し、**次へ** をクリックします。
設定の確認 画面が表示されます。
7. 設定内容を確認して **次へ** をクリックします。
8. 表示される確認メッセージボックスで、**閉じる** をクリックします。

タスクシーケンスの編集

1. **Operations Manager コンソール** を起動します。
Configuration Manager コンソール 画面が表示されます。
2. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **オペレーティングシステム** → **タスクシーケンス** の順に選択します。
3. 編集するタスクシーケンスを右クリックし、**編集** をクリックします。
タスクシーケンスエディタ ウィンドウが表示されます。
4. **追加** → **Dell 展開** → **Dell Lifecycle Controller からドライバを適用** をクリックします。
お使いの Dell サーバー導入のカスタム処置がロードされます。これで、タスクシーケンスへの変更を行うことができるようになりました。

 **メモ:** タスクシーケンスを初めて編集する時に Windows および Configuration Manager のセットアップというエラーメッセージが表示されます。このエラーを解決するには、Configuration Manager クライアントのアップグレードパッケージを作成して選択します。パッケージの作成に関する詳細については、technet.microsoft.com にある『Configuration Manager マニュアル』を参照してください。

タスクシーケンスへの Diskpart Clean の追加

1. **タスクシーケンスエディタ** で、**追加** → **一般** → **コマンドライン** とクリックします。
2. **名前** テキストボックスに、コマンドラインの名前として **Diskpart Clean** と入力します。
3. 入力コマンドラインオプション `diskpartclean.bat` を選択します。
4. **Dell PowerEdge Deployment** → **Dell PowerEdge Custom Reboot Script** パッケージを選択します。

タスクシーケンス処置の設定

タスクシーケンスエディタ で **PowerEdge サーバー設定** を選択すると、次のタブが表示されます。

- **処置設定**
- **変数置換**
- **ログ / リターンファイル**

本項では、**処置設定** タブについて説明します。**変数置換** タブに関する情報は、[変数置換](#)を参照してください。**ログ / リターンファイル** タブに関する情報は、[ログ / リターンファイル](#)を参照してください。

静的 IP ネットワークでのタスクシーケンスの導入

タスクシーケンスの導入には、次の手順が必要です。

- [.CSV ファイルの準備](#)
- [ターゲットのインポート](#)
- [OS 導入用のブータブルメディアの作成](#)
- [OS 導入用のブータブルメディアの使用](#)

.CSVファイルの準備

各ターゲットに行を追加することによって、C:\Program Files\Microsoft Configuration Manager\OSD\Lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\NetworkSetting\Samples\MACIPMap.csv にある CSV ファイルをアップデートします。

- **メモ:** 各ターゲットの MAC アドレスが、接続済みかつネットワーク上でアクティブなターゲットの NIC ポートの MAC アドレスと一致していることを確認します。
- **メモ:** EnableDHCP が true の場合、IPAddress、SubnetMask、および IPGateway の各値は無視されますが、DNS フィールドは WinPE および ポスト OSD ネットワーク設定の両方の DNS サーバーの設定に使用されます。

Importing targets

1. In the left side of Configuration Manager, expand **Assets and Compliance**, right-click **Devices**, and select **Import Computer Information** wizard.
2. Select **Import computers using a file** and click **Next**.
3. Enter the file path in the **Import file** text box or click **Browse** to navigate to the location where the file you want import is stored.
4. Select the **This file has column headings** check box.
5. From the **Assign As** drop-down list select **Variable** and click **Next**.
6. In the **Choose Target Collection** window, select the required option and click **Next**.
 - **NOTE:** If an existing device has the same name, it is over-written.
7. In the **Summary** window, review the content and click **Next**. The wizard imports the computers from the file and displays a confirmation message.

OS 導入用のブータブルメディアの作成

1. Configuration Manager の左側で **タスクシーケンス** を右クリックし、**タスクシーケンスメディアの作成** を選択します。
2. **メディアの選択** ウィンドウで、**ブータブルメディア** を選択します。
3. **オペレーティングシステムの無人導入を許可する** チェックボックスを選択し、**次へ** をクリックします。
4. **メディア管理、メディアの種類、セキュリティ、および 起動イメージ** ウィンドウで、一般的な環境に基づいてオプションを選択し、**次へ** をクリックします。
5. **カスタマイズ** ウィンドウで、**起動前コマンドを有効にする** チェックボックスを選択します。
6. **コマンドライン入力** テキストボックスに、次のコマンドを入力します。

```
cscript.exe UpdateNI.vbs
```
7. **起動前コマンドにファイルを含める** チェックボックスを選択します。
8. **パッケージ** の横にある **設定** をクリックして、**Dell PowerEdge 導入 → Dell PowerEdge 起動ネットワーク設定** を選択します。
9. **配布ポイント** テキストボックスの横にある **参照** をクリックし、該当する配布ポイントを選択して **次へ** をクリックします。
10. **概要** ウィンドウで内容を確認して **次へ** をクリックします。


ブータブルメディアが作成され、確認メッセージが表示されます。

- **メモ:** 新しいエントリが MACIPMAP.csv に追加された場合は、PowerEdge 起動ネットワーク設定-<サイトコード> を 配布ポイント にアップデートして新しいタスクシーケンスのメディアを作成します。




OS 導入用のブータブルメディアの使用

オペレーティングシステムの導入は、タスクシーケンスに含まれているタスクが必要としなければ、無人で行われます。たとえば、Windows シリアル番号がタスクシーケンスにない場合、Windows オペレーティングシステムは導入プロセス中にその番号の入力を待ちます。

 **メモ:** サイトサーバーのタスクシーケンスで適切なドライバパッケージを選択する場合に限り、.CSV ファイルに入力されたすべてのサーバーに対して同じブータブルメディアを使用することができます。

システム BIOS の設定

1. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
2. **タスクシーケンスエディタ** 左側の **ハードウェアの構成** → **手順 1** で、**BIOS Config の設定 (ini ファイル)** → **処置設定** タブをクリックします。
3. **設定処置タイプ** ドロップダウンメニューから **BIOS Config (ini ファイル)** を選択します。
表示 ボタンが有効になります。

 **メモ:** CLI オプションを使用してシステムを設定する場合は、**BIOS Config (コマンドライン)** も選択可能です。CLI オプションの使用法の詳細に関しては、[コマンドラインオプション](#)を参照してください。

4. **表示** をクリックして ini ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。
ini ファイル形式の詳細に関しては、[Dell.com/support/manuals](#) の『*Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドラインインタフェース リファレンスガイド*』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。
5. ポップアップメッセージの **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存するを選択し、**OK** をクリックします。
6. デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Systemcfg があります。
7. **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
8. **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
設定ファイル / コマンドラインパラメータ フィールドが有効になります。詳細については、[設定ファイル / コマンドラインパラメータのオプション](#)を参照してください。

または、ドロップダウンリストから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、ini ファイルを最初から作成することもできます。

ファイルまたはコマンドラインパラメータのオプションの設定

次の 3 つのオプションから選択できます。

- [<設定ファイルの作成>](#)
- [<設定ファイルのインポート>](#)
- [<syscfg.ini> の編集](#)

上記のいずれかのオプションを使用して .ini ファイルを作成した後、**タスクシーケンスエディタ** ウィンドウで **適用** をクリックします。**BIOS Config の設定 (ini ファイル)** のタスクシーケンスが作成されます。

 **注意:** パッケージ内の新しいファイルをアップデートまたは保存しても、そのファイルはすべての配布ポイントにおいて自動的にアップデートされません。その新しいファイルが必要とするシステムでのファイルの可用性を確実にするには、ソフトウェア配布 → パッケージ → Dell PowerEdge 導入 → Dell PowerEdge Deployment ToolKit Integration <バージョン> ノードから、配布ポイントをアップデートする必要があります。

<設定ファイルの作成>
<設定ファイルの作成> オプションを選択すると、**作成** ボタンが表示されます。

1. **作成** をクリックします
2. **設定ファイルエディタ** で、次のいずれか 1 つのオプションを実行します。
 - **ファイルのインポート** をクリックして既存の .ini ファイルをディレクトリからインポート。

- **設定ファイルエディタ** フィールドでオンライン **.ini** を作成し、**OK** をクリック。これにより、作成した **.ini** ファイルを、希望のローカルドライブまたはネットワーク共有に保存するためのプロンプトが表示されます。
3. **OK をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する** オプションを選択した場合、**OK** をクリックすると設定がファイルにエクスポートされます。

<設定ファイルのインポート>

<設定ファイルのインポート> オプションを選択すると、**インポート** ボタンが表示されます。**インポート** をクリックして既存の **.ini** ファイルをインポートします。

<syscfg.ini> の編集

これは BIOS **.ini** ファイルのサンプルです。

 **メモ:** **ini** ファイル形式の詳細については、Dell.com/support/manuals で入手できる『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。

1. **表示** をクリックして、既存の **syscfg.ini** ファイルを表示します。
2. **設定ファイルエディタ** ウィンドウで **syscfg.ini** ファイルを編集し、**OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する オプションを選択して **OK** をクリックします。

<raidcfg.ini> の編集

これは **raidcfg.ini** ファイルのサンプルです。

 **メモ:** **ini** ファイル形式の詳細については、Dell.com/support/manuals で入手できる『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。

1. **表示** をクリックして、既存の **raidcfg.ini** ファイルを表示します。
2. **設定ファイルエディタ** ウィンドウで **raidcfg.ini** ファイルを編集し、**OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する オプションを選択してから **OK** をクリックします。
上記オプションのいずれかを用いて **.ini** ファイルを作成した後、**タスクシーケンスエディタに適用** ウィンドウをクリックします。**RAID Config の設定 (ini file)** のタスクシーケンスが作成されます。

XML 入力を使用したシステム BIOS の設定

XML 入力を使用して、システム BIOS を設定するには、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
2. **タスクシーケンスエディタ** 左側の **ハードウェアの構成** → **手順 1** で、**BIOS Config の設定 (xml ファイル)** → **処置設定** タブをクリックします。
3. **設定処置タイプ** ドロップダウンメニューから **BIOS Config (xml ファイル)** を選択します。
4. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンリスト から **syscfg_xml.xml** を選択します。
表示 ボタンが有効になります。
5. **表示** をクリックして **設定ファイルエディタ** で **XML** ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。

ini ファイル形式に関する情報は、次を参照してください。

- Dell 第 12 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」
- Dell 第 13 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 5.0.1 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」

を Dell.com/support/manuals で参照してください。

6. **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する を選択し、**OK** をクリックして変更を保存してから、**タスクシーケンスエディタ** に戻って **OK** をクリックします。
7. デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg があります。
8. **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
9. **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。



設定ファイル / コマンドラインパラメータ フィールドが有効になります。詳細については、[設定ファイル / コマンドラインパラメータのオプション](#)を参照してください。

または、ドロップダウンから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、XML ファイルを最初から作成することもできます。

XML 入力を使用した iDRAC 7 と iDRAC 8 の設定

XML 入力を使用して iDRAC 7 と iDRAC 8 を設定するには、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
2. **タスクシーケンスエディタ** 左側の **ハードウェアの構成** → **手順 1** で、**iDRAC7 Config の設定 (xml ファイル)** → **処置設定** タブをクリックします。
iDRAC 8 では、**ハードウェアの構成** → **手順 1** とクリックし、**iDRAC 8 Config の設定 (xml ファイル)** → **処置設定** をクリックします。
3. **設定処置タイプ** ドロップダウンメニューから **iDRAC 7 Config (xml ファイル)** を選択します。
iDRAC 8 には **iDRAC 8 Config (xml ファイル)** オプションを選択します。
4. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンリスト から **idrac_xml.xml** を選択します。
表示 ボタンが有効になります。
5. **表示** をクリックして XML ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。

XML ファイル形式のついでの情報は、次を参照してください。

- Dell 第 12 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」
- Dell 第 13 世代システムでは、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit* バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』の「サンプルファイル形式」

を Dell.com/support/manuals で参照してください。

6. **OK** をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する を選択して変更を保存し、**タスクシーケンスエディタ** に戻って **OK** をクリックします。
7. デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg があります。
8. **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
9. **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
設定ファイル / コマンドラインパラメータ フィールドが有効になります。詳細については、[設定ファイル / コマンドラインパラメータのオプション](#)を参照してください。

または、ドロップダウンリストから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、XML ファイルを最初から作成することもできます。

起動順序の設定

1. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
タスクシーケンスエディタ ウィンドウが表示されます。
2. **追加** → **Dell 導入** → **PowerEdge サーバー設定** とクリックします。
Dell サーバー導入のカスタム処置がロードされます。
3. **設定処置タイプ** ドロップダウンリストから **起動順序** を選択します。
4. **処置** ドロップダウンリストから **設定** を選択します。
5. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** から、`select --bootseq=virtualcd.slot.1` を選択します。これにより、起動順序が仮想 CD から起動するように設定されます。デバイス用の起動デバイス ID を取得するには、[起動デバイス ID の取得](#)を参照してください。

 **メモ:** `--bootseq` オプションのパラメータについての情報は、『*Dell Deployment Toolkit CLI* ガイド』を参照してください。

起動デバイス ID の取得

1. DSDP を使用してタスクシーケンスを作成します。

- a. **Dell タスクシーケンスの作成** ウィザードを起動します。
 - b. **サーバーハードウェア** で、**BIOS config の設定** を選択します。
 - c. 適切な起動イメージ、資格情報、およびその他入力情報を選択します。
 - d. **タスクシーケンスの作成と保存** をクリックします。
2. タスクシーケンスを編集して、**処置** ドロップダウンリストから **取得** を選択します。
 - a. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
 - b. OS の導入は不要であることから、**リファレンスマシンの構築** 手順を削除します。
 - c. **BIOS Config の設定 (ini ファイル)** をクリックします。
 - d. **処置** を **取得** に変更します。
 - e. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** にファイル名を入力します。このファイル名は、タスクシーケンス実行後に作成される BIOS config ファイルに割り当てられます。
 - f. **ログ / リターンファイル** タブで、ファイルを作成する場所の共有パスと資格情報を入力します。
 - g. タスクシーケンスを保存します。
 3. 起動順序を設定する必要があるターゲットでタスクシーケンスを実行します。
前述の共有場所に、ファイルが指定したファイル名で作成されます。
 4. config ファイルから、**bootseq** 属性用の値を選択します。例えば、`bootseq=nic.emb.1,cdrom.emb.0,hdd.emb.0,virtualfloppy.slot.1,virtualcd.slot.1` です。
コマンドで区切られた値は、ターゲット内の個々の起動可能デバイスです。
 5. 起動順序に設定するデバイスのデバイス ID を選択します。例えば、`hdd.emb.0` です。

RAID Config (ウィザード) を使用した RAID の設定

RAID Config (ウィザード) を使用することにより、新しい設定ファイルを作成、または既存の設定をインポートして、システム上に RAID を設定することができます。

RAID Config (ウィザード) を使用して新規設定ファイルを作成することにより、RAID を設定するとします。**タスクシーケンスエディタ** の左側にある**ハードウェアの構成** → **手順 1** で、**RAID Config の設定 (ウィザード)** をクリックします

設定ファイル / コマンドラインパラメータ には、次の選択可能な 3 つのオプションがあります。

- [<設定ファイルの作成>](#)
- [<設定ファイルのインポート>](#)
- [<サンプル.xml>](#)

<設定ファイルの作成>

RAID 向けの手順を作成するには、次を実行します。

1. ドロップダウンメニューからサンプル ini ファイルを選択します。
表示 ボタンが有効になります。
2. **表示** をクリックして ini ファイルを開きます。必要な設定に応じて変更を行い、ファイルを保存します。
ini ファイル形式の詳細については、『*Dell OpenManage Deployment Toolkit バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド*』の「サンプルファイル形式」を参照してください。このガイドには URL : www.dell.com/support/Manuals からアクセスすることができます。

Array Builder < XML ファイル名 >.xml ウィンドウが表示されます。
3. **OK** をクリックしてこの**カスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する** を選択し、**OK** をクリックして **タスクシーケンスエディタ** ウィンドウに戻ります。
4. **OK** をクリックします。
5. デフォルトディレクトリにファイルを保存します。
デフォルトディレクトリの例として、`\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Raidcfg` があります。
6. **適用** をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。



または、ドロップダウンから **<設定ファイルの作成>** オプションを選択して、**ini** ファイルを最初から作成することもできます。

<設定ファイルのインポート>

1. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンメニューから **<設定ファイルのインポート>** を選択します。
2. **インポート** をクリックします。
3. インポートする設定ファイルの場所を指定して **開く** をクリックします。

<サンプル.xml>

1. **設定ファイル / コマンドラインパラメータ** ドロップダウンリストから、**<サンプル.xml>** を選択します。
2. **表示** をクリックします。
サンプル.xml 用に **Array Builder** ウィザードが開きます。
3. **サンプル.xml** の編集については、[<設定ファイルの作成>](#) を参照してください。

Array Builder の使用

Array Builder では、利用可能なすべての RAID 設定、あらゆるサイズの論理ドライブ / 仮想ディスクを用いて、または空き容量のすべてを使用してアレイを定義でき、個別アレイにホットスペアを割り当てたり、コントローラにグローバルホットスペアを割り当てたりすることが可能になります。

Array Builder のしくみ

ターゲットサーバーでタスクシーケンスを実行すると、アレイ設定ユーティリティがサーバー上の既存のコントローラ、および各コントローラに接続されたディスクを検出します。次に、**Array Builder- <xml ファイル名>.xml** → **コントローラ設定** ウィンドウ内で、カスタム処置がユーティリティが検出した物理構成と選択した論理設定との一致を試みます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- **内蔵コントローラ (マザーボード上) を選択する**
- **スロットに取り付けられているコントローラを選択する**
- **<ディスク数> のディスクが接続されているコントローラを選択する**
- **設定に関係なく、システム内の残りのすべてのコントローラを選択する**

これらのアレイ設定ルールは、お使いのアレイコントローラがどのように設定されているかを視覚的に見ることができるグラフィックな論理レイアウトを使って定義されます。ルールは **Array Builder** ツリーに表示されている順に処理されるため、ルールの優先順位を正確に把握できます。

サーバー上で検出されたタスクシーケンス変数に基づいて設定ルールを適用することもできます。これによって、検出されたハードウェアが同一であっても、異なるサーバーに異なる設定を定義できます。


コントローラ

コントローラエレメントには、変数条件エレメントが含まれます。コントローラは、次の構成タイプのひとつです。

- 内蔵コントローラ
- スロット「X」にあるコントローラ
- 「X」台のディスクを持つコントローラ
- 「X」台以上のディスクを持つコントローラ
- 残りのすべてのコントローラ

導入処置の **<設定ファイルの作成>** から **Array Builder** を起動すると、デフォルトの内蔵コントローラが作成されます。

コントローラの作成時、有効な設定を確実にするために、デフォルトの変数条件、アレイ、およびディスクが作成されます。コントローラを未設定(ディスクは非 RAID に設定)のままにする、アレイを追加する、またはその他の処置を行うこともできます。

 **メモ:** ディスクが非 RAID に設定されている場合、変数の条件が満たされないと既存の RAID がクリアされます。

コントローラの追加

1. リストからコントローラを選択するか、または内蔵コントローラを選択します。
コントローラ ドロップダウンメニューが有効化されます。
2. コントローラ → 新しいコントローラをクリックします。
コントローラ設定 ウィンドウが表示されます。
3. コントローラの選択条件 で次のいずれかのオプションを選択します。

スロットに取り付けられているコントローラを選択する

＜正確な台数、最低台数＞、＜台数＞のディスクが接続されているすべてのコントローラを選択する

設定に関係なく、システム内の残りのすべてのコントローラを選択する


4. 変数の一致条件で、選択した特定の条件に一致する場合のみこの設定を適用するようにルールを設定できます。変数の時にのみこの設定を適用を選択して、このルール設定オプションを有効にします。
5. OK をクリックします。

コントローラの編集

コントローラを編集するには、そのコントローラを選択し、コントローラ → コントローラの編集をクリックします。コントローラ設定 ウィンドウで、お使いのコントローラに対する変更を行うことができます。

コントローラの削除

1. コントローラを選択し、コントローラ → コントローラの削除をクリックします。
接続されているすべてのアレイおよびディスクが削除されるという警告メッセージが表示されます。
2. はい をクリックして削除するか、いいえ をクリックしてキャンセルします。

 **メモ:** サーバー上には、少なくとも 1 つのコントローラが必要です。コントローラが 1 つだけ残っている場合にそのコントローラを削除すると、最後のコントローラが削除されたためにデフォルトのコントローラが挿入されたというメッセージが表示されます。

変数条件

アレイおよび論理ドライブの設定を異なる状況に適用できるようにするため、変数評価を利用することができます。

変数条件の要素には、アレイやグローバルホットスペアなどがあり、次の 2 タイプに分類されます。

- **変数未定義:** すべてのコントローラに挿入されるデフォルト設定です。この設定は削除したり、その順番を最終の位置から移動することはできません。
- **変数定義済み:** すべての変数が、事前に定義された演算子を使って値と比較されます。

新しい変数条件の追加

内蔵コントローラに新しい変数条件を追加するには、次の手順を実行します。

1. 内蔵コントローラ を展開し、[変数条件が未定義] を選択します。
2. 変数 → 新しい変数条件をクリックします。
変数条件設定 ウィンドウが表示されます。



3. **変数一致条件** で、選択した特定の条件に一致する場合にのみこの変数が適用されるようにルールを設定できます。
4. **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の編集

1. 変数条件を選択し、**変数** → **変数条件の編集** をクリックします。
変数条件に対する変更を行うことができる **変数条件設定** ウィンドウが開きます。
2. **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の削除

1. 変数条件を選択し、**変数** → **変数条件の削除** をクリックします。
接続されているすべてのアレイおよびディスクが削除されるというメッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

アレイ

アレイノードには、RAID アレイと非 RAID ディスクグループの両方が含まれます (それぞれ異なるアイコンで表示されます)。デフォルトでは、コントローラ作成時に非 RAID ディスクグループが作成されます。コントローラ設定で必要なディスク台数が指定されている場合は、それと同数のディスクが非 RAID グループに追加されます。

- アレイは、コントローラの設定と使用可能なディスク台数に応じて、追加、変更、または削除されます。
- アレイエレメントには、論理ドライブと物理ディスクが含まれます。

新しいアレイの追加

変数条件で新しいアレイを追加するには、次の手順を実行します。

1. 変数条件を選択して**アレイ** → **新規アレイ** と選択します。
アレイ設定 ウィンドウが表示されます。
2. **希望する RAID レベル** ドロップダウンメニューから、必要な RAID レベルを設定します。
3. **OK** をクリックしてアレイを適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの編集

1. アレイを選択し、**アレイ** → **アレイの編集** とクリックします。
アレイの設定 ウィンドウが表示されます。ここでは、このアレイのために異なる RAID レベルを選択することができます。
2. **OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの削除

1. アレイを選択し、**アレイ** → **アレイの削除** をクリックします。
接続されているすべてのディスクが削除されるというメッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

論理ドライブ (仮想ディスク)

論理ドライブは RAID アレイと非 RAID グループに存在します。論理ドライブの設定中は、特定サイズ (GB 単位) の容量を割り当てる、または使用可能な (または残りの) 容量をすべて割り当てることができます。デフォルトでは、すべての新規アレイに対して単一の論理ドライブが作成され、使用可能な全容量を使用するように設定されます。

特定サイズの論理ドライブが定義されると、他のドライブにアレイ上の容量が割り当てられた後、**残りの全容量を使用する** 論理ドライブが、残りの容量をすべて使用します。

 **メモ:** Array Builder では、非 RAID グループでの論理ドライブの作成はサポートされていません。

 **メモ: Array Builder では、非 RAID グループ内の論理ドライブは削除できません。**

新しい論理ドライブの追加

1. アレイを選択し、**論理ドライブ** → **新しい論理ドライブ**をクリックします。
論理ドライブ設定 ウィンドウが表示されます。
2. **論理ドライブの作成** で、その論理ドライブに必要な正確なギガバイト数を入力します。
3. **OK** をクリックして論理ドライブを作成、または **キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの編集

1. 論理ドライブを選択し、**論理ドライブ** → **論理ドライブの編集**をクリックします。
論理ドライブ設定 ウィンドウが表示されます。ここで論理ドライブのサイズを変更できます。
2. **OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの削除

1. 論理ドライブを選択し、**論理ドライブ** → **論理ドライブの削除**をクリックします。
削除操作を確認するメッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

ディスク (アレイディスク)

アレイ (または非 RAID ディスクノード) の一部としてディスクをアレイに含めることができます。このようなディスクは、次のように分類されます。

- **標準ディスク** — 基本的な未定義ディスクタイプで、アレイ上のストレージを構成します。
- **ホットスペア** - RAID ディスクに障害が発生した場合にオンライン冗長性を提供するディスクで、特定のアレイに割り当てられます。
- **残りの全ディスク** - これらのディスクは、ディスク台数を厳密に指定せずにアレイを定義するオプションを提供します。

コントローラの設定に必要なディスク台数を指定すると、その台数のディスクが非 RAID に追加されます。コントローラが正確な台数を指定する場合、そのコントローラに対してディスクの追加または削除を行うことはできず、アレイ間 (またはアレイから非 RAID グループ) での移動のみが可能です。コントローラが最小台数を指定する場合はディスクの追加または削除を行うことができますが、そのコントローラ設定で指定された最小限の台数未満にディスク数を減らすことはできません。

新しいディスクの追加

新しいディスクをアレイに追加するには、そのアレイを選択して**ディスク** → **新規ディスク**とクリックします。

次のオプションから選択できます。

- **単一ディスク**
- **複数ディスク**
- **ホットスペア (現在のアレイのみ)**
- **グローバルホットスペア (すべてのアレイ)**

ディスクの変更

ディスクを変更するには、そのディスクをクリックして **ディスク** → **ディスクの変更** と選択します。

ディスクは次のいずれかに変更できます。

- **標準ディスク**
- **ホットスペア (現在のアレイのみ)**
- **グローバルホットスペア (すべてのアレイ)**

ディスクの削除

ディスクを削除するには、そのディスクをクリックして**ディスク** → **ディスクの削除**と選択します。



XML へのエクスポート

このメニューアイテムでは、現在の設定を選択した場所に XML ファイル形式で保存することができます。この設定ファイルが使用されることを確実にするには、パッケージ内に保存してください。そうしない場合、設定は変数に保存されます。

現在の設定を XML にエクスポートするには、**XML へのエクスポート** をクリックします。


XML のインポート

このメニューアイテムでは、既存の Array Builder XML ファイルを検索し、インポートすることが可能になります。この XML ファイルは正しくフォーマットしてください。しなかった場合、Configuration Manager が自動的に XML ファイルを修正して、その変更を通知します。

別の場所から既存の Array Builder XML ファイルをインポートするには、**XML のインポート** をクリックします。

パッケージへの保存

1. **OK** をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する オプションを選択します。
2. **OK** をクリックして、設定を XML ファイルに保存します。

 **注意:** 新規ファイルをパッケージ内でアップデートまたは保存しても、そのすべての配布ポイントで自動的にアップデートされません。新規ファイルをすべての配布ポイントで確実にアップデートするには、ソフトウェア配布 → パッケージ → Dell PowerEdge 導入 → Dell PowerEdge Deployment ToolKit Integration <バージョン> ノード から配布ポイントをアップデートします。

RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成

設定処置の種類 メニューから、次の表にリストされているオプションを選択して RAID、DRAC、DRAC、DRAC 用のタスクシーケンスを作成することができます。

表 2. RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成

| オプション | サブオプション | 説明 |
|---------------------|----------------|---|
| RAID 設定 (.ini ファイル) | 5i-raid0.ini | RAID 0 用のサンプルファイル |
| | 5i-raid1.ini | RAID 1 用のサンプルファイル |
| | 5i-raid5.ini | RAID 5 用のサンプルファイル |
| | raidcfg.ini | 既存の raidcfg.ini ファイルを使用して RAID を設定します。これに似た例に関しては <syscfg.ini の編集> を参照して下さい。 |
| | iscsicfg.ini | 既存の iscsicfg.ini ファイルを使用して RAID を設定します。これに似た例に関しては <syscfg.ini の編集> を参照して下さい。 |
| RAID 設定 (コマンドライン) | なし | このオプションは、CLI を使って手動で RAID トークンを設定する場合に使用します。 |
| RAC 設定 (DRAC 5) | <設定ファイルの作成> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルの作成> を参照して下さい。 |
| | <設定ファイルのインポート> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルのインポート> を参照して下さい。 |
| | rac5cfg.ini | 既存の rac5cfg.ini ファイルを使用して DRAC 5 を設定します。これに似た例に関しては、 <raidcfg.ini の編集> を参照して下さい。 |

| オプション | サブオプション | 説明 |
|----------------------|----------------|---|
| | |  メモ: DRAC 設定 (DRAC5) は、Dell PowerEdge xx0x モジュラサーバー上の Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) を設定するために使用します。 |
| iDRAC 設定 (iDRAC 6) | <設定ファイルの作成> | BIOS オプションに関しては、 <設定ファイルの作成> を参照してください。 |
| | <設定ファイルのインポート> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルのインポート> を参照して下さい。 |
| | idrac6cfg.ini | 既存の idrac6cfg.ini ファイルを使用して DRAC 6 を設定します。これに類似した例に関しては <syscfg.ini の編集> を参照して下さい。 |
| iDRAC 設定 (iDRAC 7) | <設定ファイルの作成> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルの作成> を参照して下さい。 |
| | <設定ファイルのインポート> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルのインポート> を参照して下さい。 |
| | idrac7cfg.ini | 既存の idrac7cfg.ini ファイルを使用して iDRAC 7 を設定します。これに類似した例に関しては <syscfg.ini の編集> を参照して下さい。 |
| iDRAC 設定 (iDRAC 8) | <設定ファイルの作成> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルの作成> を参照して下さい。 |
| | <設定ファイルのインポート> | BIOS オプションの詳細に関しては、 <設定ファイルのインポート> を参照して下さい。 |
| | idrac8cfg.ini | 既存の idrac8cfg.ini ファイルを使用して DRAC 8 を設定します。これに似た例に関しては <syscfg.ini の編集> を参照して下さい。 |

システムの BIOS、RAID、DRAC、および iDRAC の設定後、タスクシーケンスエディタに、ハードウェアコンポーネントシーケンスが表示されます。

変数置き換え

変数置き換え タブでは、次のようなタスク変数を使用し、設定することができます。

- システム変数
- タスクシーケンス変数
- マシン変数
- コレクション変数

変数置換タブオプションの設定

1. 変数が初期化されていない、または値が null が空白の場合の処置 セクションで、次のいずれか 1 つのオプションを選択します。

null/ 空白値を使用する 初期化されていない変数や、空白値を持つ変数を使用します。これにより、変数が未定義または空白の場合でも、クライアントは処置の処理を継続できます。

タスクを使用不可にする 有効な変数値を取得できない処置を使用不可にします。これにより、失敗したコマンドライン、または誤って設定されたシステムのデバッグを試行するかわりに、処置の不具合を表示することができます。

2. 置き換える変数のすべてのテキスト入力ファイルを検索 を選択して、次の操作を行います。



- ・ クライアント側のスクリプトを有効にして、コマンドライン内、または指定したファイル内の変数を検索して置き換えを行う。
- ・ 変数をタスクシーケンス環境または Windows システム環境内で検出された値に置き換える。

処置のパフォーマンスの最適化のため、**置き換える変数のすべてのテキスト入力ファイルを検索** チェックボックスをクリアします。



3. **提供および確定されたパスワードでの処置** ダイアログボックスのインスタンスを置換するには、このパスワードで **%PASSWORD%** 変数を置換するを選択します。
4. システムで追加の変数を設定するには、**手動で追加変数を定義する** を選択します。追加の変数を定義するには、次の手順を実行します。
 - a. 変数の **名前** を入力します。
 - b. 変数の **値** を入力します。
 - c. 変数の **タイプ** をドロップダウンメニューから選択します。
5. **適用、OK** の順にクリックします。

ログファイルの取得または設定ファイルのキャプチャ

1. この処置の実行後、**タスクシーケンスのログファイルをクライアントから取得する** を選択します。
2. ログファイルの詳細情報を取得するには、**この処置で拡張 / デバッグロギングを有効にする** を選択します。
3. **前の手順からのネットワークフォルダ設定があればそれを維持する** を選択して以前の手順から使用可能なネットワークフォルダ設定をコピーする、または 手順 4 に進んでネットワークフォルダを設定します。
4. ファイルを保存するための有効なネットワーク / ローカルパスを入力します。
5. そのパスにアクセスするためのドメインおよびアカウント名を入力します。
6. パスワードを入力して確認します。
7. 手順 4 でネットワークパスを指定した場合、**上記のネットワーク共有にドライブ文字をマップする** を選択し、ドロップダウンメニューからドライブ文字を選択します。
8. **適用、OK** の順にクリックします。

Dell サーバードライバパッケージのインポート

Dell Server Deployment Pack は、『Dell Systems Management Tools and Documentation』DVD に収録されているドライバを使用し、サーバオペレーティングシステムの組み合わせに基づいて Configuration Manager でドライバパッケージを作成するためのウィザードを提供します。これらのパッケージは、オペレーティングシステム展開のためのタスクシーケンスで使用されます。

1. お使いのシステムのドライブに『Dell Systems Management Tools and Documentation』DVD バージョン 6.2 (またはそれ以降) を挿入してください。この DVD の最新の ISO イメージは、デルサポートサイト support.dell.com からダウンロードできます。
2. **Configuration Manager コンソール** を起動します。
3. 左ペインで、**ソフトウェアライブラリ** → **概要** → **オペレーティングシステム** → **ドライバパッケージ** と選択します。
4. **ドライバパッケージ** を右クリックして **Dell サーバードライバパッケージ** → **Dell PowerEdge サーバードライバパッケージのインポート** を選択します。**Dell PowerEdge サーバードライバパッケージのインポートウィザード** が表示され、Systems Management DVD の場所をたずねます。
 -  **メモ:** ISO イメージをダウンロード済みの場合は、物理ディスクを作成、または仮想ディスク上にそれをマウントします。
5. DVD を挿入したドライブを選択して、**次へ** をクリックします。
システムとオペレーティングシステムの組み合わせに対するドライバパッケージのリストが表示されます。
6. 必要なパッケージを選択し、**終了** をクリックします。
プログレスバーがインポートの進捗状態を表示します。インポートが完了すると、インポートのサマリが表示されます。
 -  **メモ:** ドライバのインポートには時間がかかったり、進捗バーがすぐにアップデートされない場合があります。
7. **閉じる** をクリックします。

Troubleshooting

 **NOTE:** Before you run the sample commands provided in the troubleshooting section, see the DTK documentation and if required recreate the commands based on machine configuration.

An error occurs while trying to apply RAID on a system using command line interface

When you try to apply RAID using Command Line Interface on a system where an earlier version of RAID is already configured, an error is displayed.

Resolution: Add one more Dell PowerEdge Server configuration Task Sequence step (RAID Command Line) to clear the existing RAID Level. For more information, see the *Dell Deployment Toolkit User's Guide*.

Upgrade Scenario 1


If you are upgrading from DSDP version 3.0 to 3.1 by retaining DTK utilities, Windows PE drivers, and boot images created by DSDP, then do the following:

1. Edit the Task Sequence, in the left pane, from **Add** drop-down menu, click **General**, and then click **Set Task Sequence Variable**.
2. Add **Set Site Server Address** following **Restart in Windows PE** with the following details:
 - In **Name**, type `Set Site Server Address`.
 - In **Task Sequence Variable**, type `SiteServer`.
 - In **Value**, type `<Site server FQDN>`. For example: `ss1.abc.com`
 - Click **Apply** and then click **OK**.
3. Distribute and Update the **PowerEdge Custom Reboot Script** and **PowerEdge Deployment Toolkit Integration** packages.

 **NOTE:** During upgrade, the drivers assigned to a boot image are removed, you must link the boot image to the task sequence and then inject the drivers into the boot image.


Upgrade Scenario 2

If you are upgrading from DSDP version 3.0 to 3.1 by removing DTK utilities, Windows PE drivers, and boot images created by DSDP, then do the following:

1. Edit the Task Sequence.
 -  **NOTE:** when you edit the task sequence, the following error is displayed: `Diskpart clean step has lost reference to the package` in the message prompt, click **Ok**.
2. Select the **Diskpart clean** tab. Click **Browse** to select Dell PowerEdge Custom Reboot script package.
3. In the left pane, from **Add** drop-down menu, click **General**, and then click **Set Task Sequence Variable**.
4. Add **Set Site Server Address** following **Restart in Windows PE** with the following details:
 - In **Name**, type `Set Site Server Address`.
 - In **Task Sequence Variable**, type `SiteServer`.
 - In **Value**, type `<Site server FQDN>`. For example: `ss1.abc.com`



- Click **Apply** and then click **OK**.
5. Distribute and Update the **PowerEdge Custom Reboot Script** and **PowerEdge Deployment Toolkit Integration** packages.

 **NOTE: During upgrade, the boot image is removed, you must create a boot image, link the boot image to the task sequence, and then inject the drivers into the boot image.**


コマンドラインオプション

DSDP は、Dell Deployment Toolkit でサポートされているコマンドラインオプションをサポートしています。

コマンドラインオプション、使用ガイドライン、および構文の詳細については、『Dell OpenManage Deployment Toolkit バージョン 4.4 コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』を参照してください。

DSDP でサポートされる SYSCFG および RAIDCFG コマンド

- SYSCFG — Deployment Toolkit (DTK) システム設定ユーティリティの SYSCFG コマンドは、設定ファイル形式、サーバー BIOS の設定に使用する個々の実行可能ファイルと、DTK 状態設定に関する情報、および PCI デバイス検出を含むシステム情報を取得するためのコマンドの実行を可能にします。
- RAIDCFG — Deployment Toolkit (DTK) RAID 設定ユーティリティ RAIDCFG は、すべての対応 RAID コントローラを設定するためのコマンドを提供します。

 **メモ:** 正確な結果を得るため、タスクシーケンス ウィザードでコマンドラインオプションを入力することをお勧めします。

—acpower

表 3. SYSCFG コマンド

| | |
|-----------|--|
| オプション | --acpower |
| 有効な引数 | on、off、last |
| 説明 | AC 電源喪失後におけるシステムのための動作を設定します。このオプションは AC 電源の回復に対してシステムがどのように応答するかを指定するもので、特に、電源タップを使用して電源を切るシステムに対して便利です。 on に設定すると、AC 電源の回復後にシステム電源がオンになります。 off に設定すると、AC 電源が回復してもシステム電源はオンになりません。 last に設定すると、AC 電源喪失時にシステムがオンであった場合にはシステムがオンになり、AC 電源喪失時にシステムがオフであれば、電源が回復してもシステムはオフ状態のままとなります。このオプションは複製可能です。 例： A:>syscfg --acpower=on acpower=on |
| 適用可能なシステム | PowerEdge 12G システムより前のすべての Dell PowerEdge システム。 |

このコマンドを DSDP で使用するときには、syscfg を削除してコマンドを実行します。

--acpower=on acpower=on

表 4. RAIDCFG コマンド

| 必須オプションおよび引数 | オプションパラメータ | 有効なパラメータ引数 | 説明 |
|---|------------|------------|---|
| -vd -vd=id -ac=svdn - vdn=<string> - c=id または vdisk vdisk=id action=setvdname vname=<string> controllerid= id | 該当なし | 該当なし | 指定したコントローラ上で指定した仮想ディスクの名前を設定します。 例： A:>raidcfg -vd -vd=2 -ac=svdn - vdn=xxx -c=2 RAIDCFG Command successful! |



このコマンドを DSDP で使用するときには、`raidcfg` を削除してコマンドを実行します。


```
-vd -vd=2 -ac=svdn -vdm=xxx -c=2 RAIDCFG Command successful!
```

デルのその他のマニュアル

本ガイドおよびオンラインヘルプに加えて、特定の Dell OpenManage 製品についての詳細を得るために、次のマニュアルを参照する必要がある場合があります。これらのマニュアルは、[Dell.com/support/manuals](https://www.dell.com/support/manuals) で入手できます。

- 『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack バージョン 3.1 インストールガイド』では、お使いのシステムへの DSDP 3.1 のインストールに関する情報を提供しています。
- 『Dell Remote Access Controller 5 ファームウェアユーザズガイド』には、RACADM コマンドラインユーティリティを使用して DRAC 5 を設定する方法についての包括的な情報が提供されています。
- 『Dell Chassis Management Controller ユーザーズガイド』には、Dell サーバーが設置されているシャーシ内の全モジュールを管理するコントローラの使用についての包括的な情報が提供されています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』には、を管理および管理下システムでの Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) インストール、設定、およびメンテナンスの実行に関する情報が提供されています。
- 『Dell Remote Access Controller/Modular Chassis ユーザーズガイド』には、Dell Remote Access Controller/Modular Chassis (DRAC/MC) のインストール、設定、メンテナンスの実行についての情報が提供されています。
- 『iDRAC6 および CMC コマンドリファレンスガイド』では、RACADM コマンドラインユーティリティの使用に関する包括的な情報を提供しています。
- 『iDRAC 2.00.00.00 および CMC コマンドリファレンスガイド』では、第 10 ~ 13 世代プラットフォームの RACADM コマンドラインユーティリティの使用に関する包括的な情報を提供しています。
- 『Dell OpenManage Deployment ToolKit ユーザーズガイド』では、Windows Preinstallation Environment (Windows PE) または組み込まれた Linux を使用した正常な導入のための基本的な作業に焦点を当てた、一般的なベストプラクティス手順が記載されています。
- 『Dell OpenManage Deployment ToolKit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』では、システム機能を設定するためのコマンドラインユーティリティについての情報を提供します
- 『Server Update Utility ユーザーズガイド』は、アップデートを識別してシステムに適用する方法を説明しています。
- 『Dell Repository Manager ユーザーズガイド』では、Microsoft Windows オペレーティングシステムが動作しているサーバー上でカスタマイズされたバンドルやリポジトリを作成する方法について説明しています。
- 『Glossary』(用語集) では、本書で使用される用語について説明しています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller 8 with Lifecycle Controller ユーザーズガイド』

デルへのお問い合わせ

 **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国 / 地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

[Dell.com/contactdell](https://www.dell.com/contactdell) にアクセスします。

デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
 - すべての Enterprise システム管理マニュアル — [Dell.com/SoftwareSecurityManuals](https://www.dell.com/SoftwareSecurityManuals)



- OpenManage マニュアル — Dell.com/OpenManageManuals
- リモートエンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/esmmanuals
- iDRAC および Lifecycle Controller マニュアル - Dell.com/idracmanuals
- OpenManage Connection エンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
- Serviceability Tool マニュアル — Dell.com/ServiceabilityTools
- Client Command Suite システム管理マニュアル — Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals
- Dell サポートサイトから、
 - a. Dell.com/Support/Home に移動します。
 - b. **製品の選択**セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ**をクリックします。
 - c. **ソフトウェアとセキュリティ**グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **エンタープライズシステム管理**
 - **リモートエンタープライズシステム管理**
 - **Serviceability Tools**
 - **Dell Client Command Suite**
 - **接続クライアントシステム管理**
 - d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。